

公立学校女性管理職進出度の都道府県別順位変動など (2010年ランキング順)

池 木 清

富山は3年続けてトップだが、進出度は19.0で、この研究調査を始めた1996年の18.9とほとんど変わらず、この十数年の間に女性の管理職登用が進んだわけではない。

福井は2007年に進出度19.5で首位に躍り出たが、その後は3年続けて2位。この研究調査を始めた1996年には、進出度6.4で28位だったから、この間に女性の管理職登用が大いに進んだ県である。

栃木は4年続けて3位。進出度も17.1だから全国水準よりかなり高いが、1999年から2004年まで常に進出度が20を超えていたことを考えると、これでも物足りない数字である。

神奈川は前年の7位から4位へ。2008年に8位で初めてベストテン入りし、引き続き進出度も順位も上げ続けている。

岡山は前年の8位から5位へ。2008年に9位で初めてベストテン入りし、神奈川と同様、引き続き進出度も順位も上げ続けている。

秋田は前年の5位から6位へと一つ順位を下けているが、2007、8年も6位で、近年はほぼこのあたりに定着。

広島は前年の6位から7位へと一つ順位を下けているが、進出度は16.0で変わっていない。研究調査を始めた1996年当時から、常に上位をキープしている。

大分は前年の4位から8位へと後退したが、研究調査を始めた1996年には進出度6.9で26位だったから、この間に女性の管理職登用が進んだ県ではある。

岩手は前年に続いて9位。研究調査を始めた1996年当時から、常に全国的には上位を保っている。

沖縄は前年の11位から10位へ。研究調査を始めた1996年に進出度7.5で22位だったから、この間にかなり伸びた県である。

鳥取は前年の 10 位から 11 位へと一つ順位を下げた。2008 年は 16 位だったから、2009 年には躍進したわけだが、小規模県なので、若干振れが大きくなる面もある。

愛媛は 3 年続けて 12 位。進出度はわずかに低下しているが、近年、四国では僅差ながら最上位を占めている。

高知は前年の 15 位から 13 位へ。しかし、進出度は下がっている。研究調査を始めた 1996 年には 2 位で、進出度も 16.0 だったから、この間の女性管理職減らしが顕著である。

徳島は前年に続いて 14 位。しかし、進出度は下がっている。2001 年には 8 位まで上がっていたこともあり、近年やや低迷している。

東京は前年の 17 位から 15 位へと順位を戻したが、研究調査を始めた 1996 年には 7 位だったから、この間にかなり順位を下げたことになる。

石川は前年の 21 位から 16 位へ躍進。進出度もかなりアップしている。北陸 3 県のうち、他の 2 県が全国 1,2 位なので、少しは刺激を受けているのかも。

滋賀は前年 13 位から今回は前々年と同じ 17 位へ逆戻り。小規模県なので、若干振れが大きくなる面もある。

大阪は前年に続き 18 位。進出度も微増でほとんど変化なし。

香川は前年に続き 19 位。研究調査を始めた 1996 年当時は 3 位だったから、大きく後退しており、ここ 2 年は四国で最下位となっている。

山口は前々年の 11 位から前年 16 位へ、そして今回は 20 位と大きく後退を続けている。2006 年には進出度が 15.8 を記録していたから、ここ数年の女性管理職減らしが顕著である。

佐賀は前年の 20 位から 21 位へと一つ順位を下げた。研究調査を始めた 1996 年には 17 位で、長く 10 位台の順位を保っていたが、近年はやや低迷気味。

三重は前年の 23 位から 22 位へと一つ順位を上げた。進出度も上げたが、まだ、全国の進出度に追いついていない。

静岡は前年の 25 位から 23 位へと上昇。進出度も 10 を超え、全国水準にもあと僅か。

福岡は前年の 22 位から 24 位へと後退。研究調査を始めた 1996 年には 14 位だったから、かなり順位が下がってきている。

青森は前年の 24 位から 25 位へ後退したが、進出度は少し伸びている。研究調査を始めた 1996 年には 35 位と下位だったが、近年は全国水準に近づいてきた。

宮城は 3 年続けて 26 位。2007 年には 32 位で、東北 6 県の中で最低順位となったこともあったが、ここ 3 年は福島、山形を上回っている。

岐阜は前年の 33 位から 27 位へ躍進。前々年には進出度 7.1 で 42 位だったから、この 2 年間の女性管理職登用は特筆に値するが、まだ進出度は全国水準に達しておらず、今後の動向が注目される。

愛知は前年の 34 位から 28 位へと躍進。隣県岐阜の動きに 1 年遅れで追随したのかも。研究調査を始めた 1996 年には進出度 3.3 で、41 位だったことを考えると、かなり改善されてきたと言える。

島根は前年の 27 位から 29 位へ後退したが、進出度は変わっていない。中国地方 5 県のうちでは相変わらず最下位。

京都は前年の 31 位から 30 位へと少し戻したが、研究調査を始めた 1996 年には 8 位で進出度も 11.3 だったから、この間に女性管理職を大きく減らしたことになる。

兵庫は前年の 28 位から 31 位へ後退。研究調査を始めた 1996 年当時は女性管理職進出度 7.1 で、ちょうど当時の全国水準と同じだったが、近年は全国水準に遠く及ばない。

新潟は前年の 35 位から 32 位へ戻し、進出度も上昇。研究調査を始めた 1996 年には進出度 2.3 で、順位も 45 位と下から 3 番目だったことを考えると、かなり改善されてきた。

福島は前年の 30 位から 33 位へ後退したが、進出度は少し上昇している。研究調査を始めた 1996 年には進出度 3.8 で、順位は 39 位だったから、これでも、少しは改善されてきたことになる。

茨城は前年の 41 位から 34 位へ躍進。前年は関東一都六県の中では最低順位だったが、今回、群馬、埼玉、千葉をいっぺんに抜いた。

群馬は前年の 40 位から 35 位へと躍進したが、研究調査を始めた 1996 年には 23 位だったから、まだ当時の順位にはほど遠い。

千葉は前年の 37 位から 36 位へと順位を一つ上げたが、茨城、群馬が躍進したため、関東一都六県の中では下から 2 番目となった。

長崎は前年の 29 位から 37 位へと後退したが、進出度は 0.2 下がっただけ。この辺りの順位では進出度の似た県が多く、大きく順位を下げる結果となった。

長野は前年の 36 位から 38 位へと後退したが、進出度は僅かながらアップ。2004、5 年と連続最下位だったことを考えると、これでも近年は少し改善されたと言える。

和歌山は前年の 38 位から 39 位へと後退したが、進出度は僅かながらアップ。研究調査を始めた 1996 年には 20 位だったから、近年は大きく順位を下げていることになる。

埼玉は前年の 39 位から 40 位へと後退。進出度は変わらなかったが、関東一都六県の中では最低順位に転落した。

奈良は前年の 32 位から 41 位へと大きく後退。和歌山にも抜かれ、近畿では最低順位となった。

山形は前年と同じ 42 位だが、進出度は下げている。研究調査を始めた 1996 年には進出度 10.7 で 10 位だったから、この間に女性管理職減らしを最も徹底して行った県である。

山梨は前年の 45 位から 43 位へ戻し、進出度も上がったが、研究調査を始めた 1996 年には 37 位だったから、まだまだ低迷していると言える。

熊本は前年まで 4 年連続最下位だったが、今回そこを脱して 44 位。進出度も前年に比べかなり上昇した。当地の新聞が報じられた成果かも。

鹿児島は 44 位から 45 位へ後退したが、進出度は少し上がっている。2000 年から 2003 年までは最下位だったから、これでも近年少しは改善されたと言える。

宮崎は 43 位から 46 位へ後退したが、進出度は少し上がっている。この研究調査を始め以来、最下位グループの常連である。

北海道は前年の 46 位から最下位に転落。研究調査を始めた 1996 年から 1999 年まで 4 年連続最下位だったが、久しぶりに元の位置に。

なお、全国の出度度は、私がこの研究調査を始めた 1996 年当時には 7.1 だったが、緩慢ながらも次第に上昇し、今回は 10.8 となった。この調査・発表の継続が、全国的な底上げ、とりわけ下位県の出度度には、かなり効果があったのではないかと思われる。